

技術概要説明書

木造軸組住宅用壁補強キット

「MDFかべつよし」

木造軸組住宅用壁補強キット(不燃用)

「モイスかべつよし」

平成30年 3月

一般財団法人 日本建築防災協会の住宅等防災技術評価
(DPA-住技-13-2)取得 2018.02.07

技術概要説明書 (製品概要)

1. 技術名 (一財)日本建築防災協会の住宅等防災技術評価(DPA-住技-13-2)取得 2018年2月7日

木造軸組住宅用壁補強キット「かべつよし(MDF)」

木造軸組住宅用壁補強キット(不燃用)「モイスかべつよし」

2. 適用範囲

1) 適用対象建築物

項目	適用条件	
建物用途	住宅	
構法	適用対象	在来軸組構法、伝統的構法、立面的な混構造の木造部分
規模	階数	3階建て以下の全ての階
	延床面積	500㎡以下
	横架材間内法高さ	かべつよし(MDF): 2250mm以上3550mm以下 モイスかべつよし: 2070mm以上3280mm以下 仕様別の内法制限については別途詳細参照
基礎・地盤条件	特になし	

2) 適用する部位

・木造住宅の壁を対象とする。

3) その他注意事項

・外壁や台所、脱衣室など水掛かりの恐れがある部位に施工する場合には、下地(面材)が湿潤状態とならないよう防水上有効な仕上げを講じる。

・補強する部位の躯体(土台・梁・柱)の劣化状況を確認し、著しい劣化が見られる場合は交換または修繕を行ってください。また、補強する部分の梁・桁・胴差しに継手部分がある時には使用しないでください。

3. 技術の実施者

1) 設計者

以下の 両方の資格を有し、エイム株式会社が開催する設計施工技術者研修会もしくはエイム株式会社の技術指導を受けた設計者が行う。

建築士

(一財)日本建築防災協会または都道府県、定期報告取り扱い地域法人、全国の建築士会、全国の建築士事務所協会のいずれかが主催する「木造住宅の耐震診断と補強方法」講習会受講者

2) 施工者

エイム株式会社が開催する設計施工技術者研修会もしくはエイム株式会社の施工指導を受けた者が施工及び管理を行う。

3) 製造者、販売者

エイム株式会社

4. 技術の概要・仕様・特徴

1) 技術概要

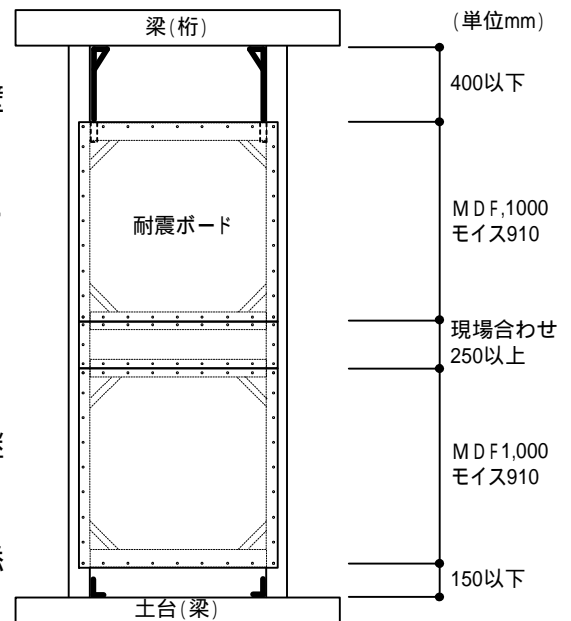
既存木造住宅の既存の床・天井を壊さずに、建物の内部壁を取り付けて補強することができる工法(右図)です。

耐震ボードは、MDF(ミディアム・デンシティ・ファイバーボード)とモイス(繊維混入けい酸カルシウム板)の2種類です。

ボードは3分割で、中央部分で高さを調整します。

耐震ボードの左右は柱ないし柱に取り付けた受け材(縦棧)に、ボードの上下は横棧(天井面・床面付近とボードの縦継ぎ部分に配する)に取付ける仕様です。

仕様は1Pタイプ(大壁・入隅・真壁仕様)や1.5~2Pタイプ(添え柱、後施工柱仕様)を備えています。



2) 技術の仕様

主要な構成部材の材料、規格は下記の通りとする

「MDFかべつよし」の耐震ボードは、JIS A 5905(2003)に規定されたミディアム・デンシティ・ファイバーボード(略称MDF)で、高倍率タイプのMDF(曲げ強さによる区分30タイプ)、寸法は高さ1,000mm×幅1,000mm×厚9.0mm。

「モイスかべつよし」の耐震ボードは、JIS A 5430(繊維強化セメント板)に規定されたけい酸カルシウム板で、名称がモイス、面材タイプ耐力壁(TM)、寸法は高さ910mm×幅1,000mm×厚9.5mm。

「かべつよし」の耐震ボードの取り付けに用いるビスは、JIS G 3539 冷間圧造用炭素鋼線SWCH22Aに表面処理JIS H8610電気亜鉛めっきクロメート処理を施したものの。寸法形状は、特殊ノコ刃付き、頭口穴付きで呼び径5.8mm、全長50mmである。

「モイスかべつよし」の耐震ボードの取り付けに用いるビスは、JIS G 3539 冷間圧造用炭素鋼線SWCH22Aに表面処理JIS H8610電気亜鉛めっきユニクロ処理を施したものの。寸法形状は、特殊ノコ刃付き、頭口穴付きで呼び径4.2mm、全長28mmである。

横棧は、構造用単板積層材(JAS80E-215F 55V-47H)を寸法厚30mm×幅90mm×長さ910mmへ切断したものとする。

縦棧は、構造用単板積層材(JAS80E-215F 55V-47H)を寸法厚30mm×幅40mm×長さ865mmへ切断したものとする。

三角金物は、JIS G 3131 熱間圧延軟鋼及び鋼帯 SPHCにダクロダイズド処理又はユニクロめっきを施したものとする。

後施工柱は、ベイツガ(AQ-219-B1-1)を使用。寸法は90mm×90mm。

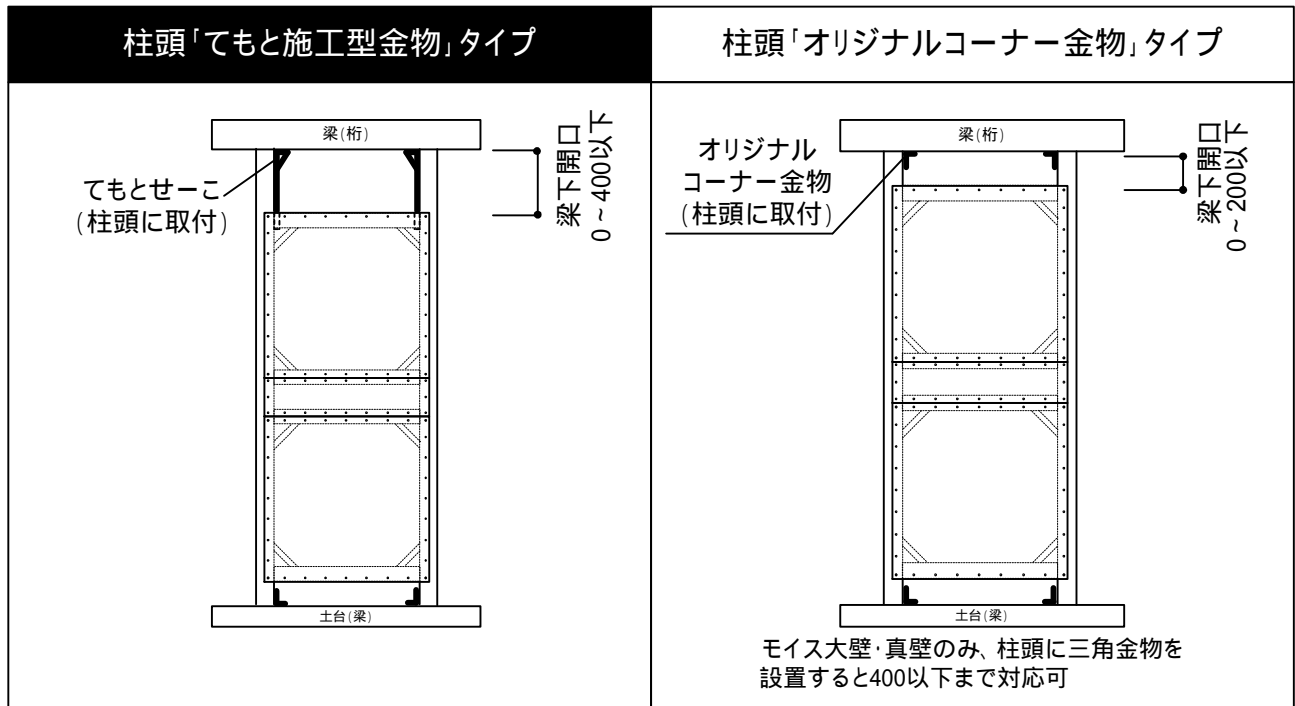
3) 面材の特徴

MDF	モイス
<ul style="list-style-type: none"> ・材質:ミディアム・デンシティ・ファイバーボード ・サイズ 1,000×1,000 厚9.0 ・MDFの上に下地ベニヤ等を張って仕上げます ・ホルムアルデヒド放散量はF 	<ul style="list-style-type: none"> ・材質:モイス(繊維混入けい酸カルシウム板) ・サイズ 910×1,000 厚9.5 ・表面にシール加工を行っているため、クロスや塗壁を直接仕上げが可能です ・優れた吸湿性・放湿性、消臭効果を発揮します。 ・有害物質を吸着・固定するため、シックハウス対策にも大きな効果があります。

4) 柱頭金物による仕様の取り扱い

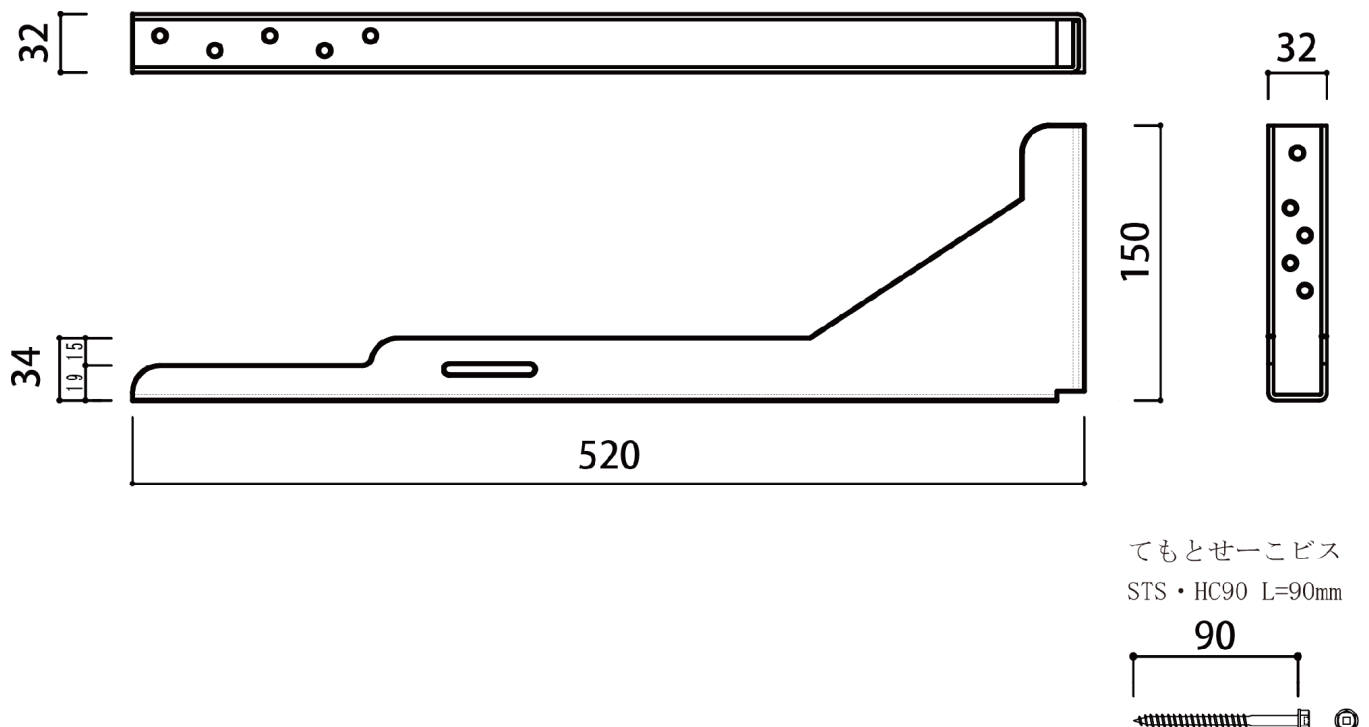
柱頭に施工する金物は「てもと施工型金物(てもとせーこ)」を使用する「てもと施工型」で設計します。てもと施工型金物は引き抜きだけでなく、曲げやせん断にも抵抗できる性能を有しており、梁下の開口は[0～400mm以下]まで対応可能です。

てもと施工型金物が物理的に納まらない等の事情がある場合は「オリジナルコーナー金物」仕様での設計も可能です。ただし、その場合は原則として梁下開口は[0～200mm]以下となります



柱頭てもと施工型金物(てもとせーこ) 告示 平12建告第1460号 第2号(と)対応

仕様図



5) 施工仕様と適用寸法

施工仕様は、柱頭金物が「てもと施工金物」タイプ【1】～【14】の14種類と、柱頭金物が「オリジナルコーナー金物」タイプ ～ の20種類の合計34種類である。

「MDFかべつよし」

- 【1】～【4】ならびに ～ は大壁仕様で、耐震ボードを上下部分は横棧に、左右は柱に留める。
【5】～【7】ならびに ～ は真壁仕様で、上下部分は横棧に左右は柱に設けた縦棧に留める。
の外壁大壁仕様は、上下部分は横棧と土台、梁面から50mmのところから、左右は柱に留める。

「モイスかべつよし」

- 【8】～【11】ならびに ～ は大壁仕様で、耐震ボードを上下部分は横棧に、左右は柱に留める。
【12】～【14】ならびに ～ は真壁仕様で、上下部分は横棧に左右は柱に設けた縦棧に留める。
壁上部の隙間高さ(梁下面から面材上端まで)は200mm以下(モイスかべつよしの大壁ab・真壁gについては400mm以下)、壁下部の隙間高さ(土台上部から面材下場まで)は150mm以下とする。(を除く)。以下それぞれの詳細を示す。

【1】/【8】 MDF/モイス 大壁 T/t

- ・壁1P(600～1,000mm)の左右は90mm×90mm以上の柱とする。

【2】/【9】 MDF/モイス 大壁 入隅 U/u (「入隅キット」が必要)

- ・壁1P(900～1,000mm)の左右は90mm×90mm以上の柱とする。

【3】/【10】 MDF/モイス 大壁 添え柱 W/w

- ・壁1P(900～1,000mm)の左右いずれか一方は90mm×90mm以上の柱とし、他方は既存の間柱に添え柱をし、断面寸法は90mm×90mm以上とする。

【4】/【11】 MDF/モイス 大壁 後施工柱 X/x (後施工柱キット「板柱太」が必要)

- ・壁1P(900～1,000mm)の左右いずれか一方は90mm×90mm以上の柱とし、他方は後施工柱を設置する。

【5】/【12】 MDF/モイス 真壁 V/v

- ・柱に直張り出来ない入隅柱には受材(縦棧)を取付ける。
- ・壁1P(600～1,000mm)の左右は90mm×90mm以上の柱とする。
- ・耐震ボードは、上下部分を横棧に、左右部分を柱、又は入隅の受材に留める。

【6】/【13】 MDF/モイス 真壁 添え柱 Y/y

- ・壁1P(900～1,000mm)の左右いずれか一方は90mm×90mm以上の柱とし、他方は既存の間柱に添え柱をし、断面寸法は幅90mm×奥行45mm以上とする。

【7】/【14】 MDF/モイス 真壁 後施工柱 Z/z (後施工柱キット「板柱太」が必要)

- ・壁1P(900～1,000mm)の左右いずれか一方は90mm×90mm以上の柱とし、他方は後施工柱を設置する。

/ MDF/モイス 大壁 A/a(左右とも柱105mm角以上)

・壁1P(600～1,000mm)の左右は105mm×105mm以上の柱とする。

/ MDF/モイス 大壁 B/b(左右とも柱 90mm角以上～柱 105mm角未満)

・壁1P(600～1,000mm)の左右は90mm×90mm以上の柱とする。

/ MDF/モイス 大壁 添え柱 C/c

・壁1P(900～1,000mm)の左右いずれか一方は90mm×90mm以上の柱とし、他方は既存の間柱に添え柱をし、断面寸法は90mm×90mm以上とする。

/ MDF/モイス 大壁 後施工柱 D/d (後施工柱キット「板柱太」が必要)

・壁1P(900～1,000mm)の左右いずれか一方は90mm×90mm以上の柱とし、他方は後施工柱を設置する。

/ MDF/モイス 大壁 入隅 E/e (「入隅キット」が必要)

・柱に直張り出来ない入隅柱には受材(縦棧)を取付ける。

・壁1P(900～1,000mm)の左右は90mm×90mm以上の柱とする。

・耐震ボードは、上下部分を横棧に、左右部分を柱、又は入隅の受材に留める。

/ MDF/モイス 大壁 開口 F/f (参考商品名 「まどつよし」「モイスまどつよし」)

・壁1P(900～1,000mm)の左右は90mm×90mm以上の柱とする。柱径が90mm角以上105mm角未満の場合は、少なくとも片側には無開口壁があることを前提とする。

・耐震ボードの開口は900mm以下とする。

/ MDF/モイス 真壁 G/g

・壁1P(600～1,000mm)の左右は90mm×90mm以上の柱とする。

/ MDF/モイス 真壁 添え柱 H/h

・壁1P(900～1,000mm)の左右いずれか一方は90mm×90mm以上の柱とし、他方は既存の間柱に添え柱をし、断面寸法は幅90mm×奥行45mm以上とする。

/ MDF/モイス 真壁 後施工柱 I/i (後施工柱キット「板柱太」が必要)

・壁1P(900～1,000mm)の左右いずれか一方は90mm×90mm以上の柱とし、他方は後施工柱を設置する。

MDF 大壁 全面貼り J

・壁1P(900～1,000mm)の左右は90mm×90mm以上の柱とする。耐震ボードは、上下部分は横棧と土台、梁面から50mmのところへ、左右は柱に留める。

モイス 真壁 長押補強 k (「長押非切断キット」が必要)

・壁1P(900～1,000mm)の左右は105mm×105mm以上の柱とする。

6) 壁基準耐力、壁基準剛性、N値計算用有効倍率

【柱頭にてもと施工型金物を使用する場合】…【1】～【14】の14種類

【施工スパン1Pの場合】

施工仕様		壁基準耐力 [kN/m]		壁基準剛性 [kN/rad/m]		N値計算用有効倍率		
		柱105角 以上	柱90角以上 105角未満	柱105角以上	柱90角以上 105角未満	柱105角以上	柱90角以上 105角未満	
MDF かべつよし	大壁	[1]MDF大壁 T	8.8	8.1	1700	1600	4.5	4.1
		[2]MDF大壁 入隅 U 1	8.0	7.4	1200	1200	4.1	3.8
	真壁	[5]MDF真壁 V	8.6	7.9	1600	1500	4.4	4.0
モイス かべつよし	大壁	[8]モイス大壁 t	7.1	6.1	1500	1300	3.6	3.1
		[9]モイス大壁 入隅 u 1	6.8	5.9	1300	1100	3.5	3.0
	真壁	[12]モイス真壁 v	6.9	6.0	1400	1200	3.5	3.1

1 大壁入隅は、「入隅キット」が必要です

【施工スパン1.5～2Pの場合】

施工仕様		壁基準耐力 [kN/m]		壁基準剛性 [kN/rad/m]		N値計算用有効倍率		
		柱105角 以上	柱90角以上 105角未満	柱105角以上	柱90角以上 105角未満	柱105角以上	柱90角以上 105角未満	
MDF かべつよし	大壁	[3]MDF大壁 添え柱 W	6.6	6.0	1400	1300	3.4	3.1
		[4]MDF大壁 後施工柱 X 2	6.9	6.4	1600	1500	3.6	3.3
	真壁	[6]MDF真壁 添え柱 Y	5.7	5.3	1100	1000	2.9	2.7
		[7]MDF真壁 後施工柱 Z 2	7.0	6.5	1300	1200	3.6	3.3
モイス かべつよし	大壁	[10]モイス大壁 添え柱 w	5.7	4.9	1200	1100	2.9	2.5
		[11]モイス大壁 後施工柱 x 2	5.8	5.0	1300	1100	3.0	2.6
	真壁	[13]モイス真壁 添え柱 y	5.4	4.6	1100	1000	2.8	2.3
		[14]モイス真壁 後施工柱 z 2	6.8	5.9	1300	1100	3.5	3.0

2 後施工柱は、後施工柱キット「板柱太(ばんちゅうた)」が必要です

【柱頭にオリジナルコーナー金物を使用する場合】… の20種類

【施工スパン1P (梁下200以下) の場合】

[]内は柱スパン600mmの場合

施工仕様		壁基準耐力 [kN/m]		壁基準剛性 [kN/rad/m]		N値計算用有効倍率	
		柱105角 以上	柱90角以上 105角未満	柱105角以上	柱90角以上 105角未満	柱105角以上	柱90角以上 105角未満
MDF かべつよし	大壁	MDF 大壁 A (左右とも柱105角以上)	7.1		1300		3.6 [5.5]
		MDF 大壁 B (左右とも柱 90角以上 ~ 柱 105角未満)		6.2		1200	3.1 [4.8]
		MDF 大壁 入隅 E 1	5.7	4.9	1200	1100	2.9 2.5
		MDF 大壁 開口 F	3.4	2.3	680	500	1.7 1.1
		MDF 大壁 全面貼り J	8.2	7.1	2200	2000	4.1 3.6
	真壁	MDF 真壁 G	5.6	4.9	1100	1000	2.8 [4.6] 2.4 [4.1]
モイス かべつよし	大壁	モイス 大壁 a (左右とも柱105角以上)	6.8		1500		3.4 [4.0]
		モイス 大壁 b (左右とも柱 90角以上 ~ 柱 105角未満)		5.8		1400	2.9 [3.5]
		モイス 大壁 入隅 e 1	6.5	5.6	1400	1300	3.3 2.8
		モイス 大壁 開口 f	3.4	2.6	580	440	1.7 1.3
		モイス 真壁 g	6.6	5.7	1200	1100	3.3 [4.1] 2.9 [3.6]
	真壁	モイス 真壁 長押補強 k	5.9	適用不可	1100	適用不可	3.0 適用不可

1 大壁入隅は、「入隅キット」が必要です

【施工スパン1P、梁下に三角金物で補強する場合 (梁下400まで対応)】

施工仕様		壁基準耐力 [kN/m]		壁基準剛性 [kN/rad/m]		N値計算用有効倍率	
		柱105角 以上	柱90角以上 105角未満	柱105角以上	柱90角以上 105角未満	柱105角以上	柱90角以上 105角未満
モイス かべつよし	大壁	モイス 大壁 a 梁下400 (左右とも柱105角以上)	6.0		1100		3.0
		モイス 大壁 b 梁下400 (左右とも柱 90角以上 ~ 柱 105角未満)		3.8		680	2.7
	真壁	モイス 真壁 g 梁下400	6.6	4.3	1200	790	3.5 3.1

【施工スパン1.5 ~ 2P (梁下200以下) の場合】

施工仕様		壁基準耐力 [kN/m]		壁基準剛性 [kN/rad/m]		N値計算用有効倍率	
		柱105角 以上	柱90角以上 105角未満	柱105角以上	柱90角以上 105角未満	柱105角以上	柱90角以上 105角未満
MDF かべつよし	大壁	MDF 大壁 添え柱 C	5.5	4.8	1100	1100	2.8 2.4
		MDF 大壁 後施工柱 D 2	6.0	5.2	1400	1300	3.0 2.6
	真壁	MDF 真壁 添え柱 H	4.9	4.3	980	900	2.5 2.1
		MDF 真壁 後施工柱 I 2	5.3	4.6	1100	1000	2.6 2.3
モイス かべつよし	大壁	モイス 大壁 添え柱 c	5.3	4.6	1100	1000	2.7 2.3
		モイス 大壁 後施工柱 d 2	5.5	4.7	1200	1100	2.8 2.4
	真壁	モイス 真壁 添え柱 h	5.2	4.5	1100	990	2.6 2.3
		モイス 真壁 後施工柱 i 2	6.0	5.2	1200	1100	3.0 2.6

2 後施工柱は、後施工柱キット「板柱太(ばんちゅうた)」が必要です

7) 特徴(一般的な工法との比較)

一般的な耐力壁補強(合板直張り、筋かい増設)は、外壁もしくは内部から床・天井を解体して工事を行うため、付帯工事によるコスト増や工期が長くなってしまいます。「MDFかべつよし」、「モイスかべつよし」なら床・天井を解体することなく耐震補強が可能のため、低コストかつ工期も短縮することが可能です。耐震ボードは3枚張り(・のみ2枚)とし、補強に必要な部材を全てキット化し、施工性を向上した。当技術の内容・特徴と従来の技術との比較表は、表4に示す通り。

表4 かべつよしと一般的な工法の比較

	「MDFかべつよし」 「モイスかべつよし」	従来一般的な工法 (合板直張り、筋かい)
施工方法	既存の床・天井を壊さずとも、建物の内部壁を施工出来る	外壁を撤去した上での施工。内部の場合は床・天井を撤去後の施工
施工時の足場設置	建物内部からの補強なので、2階部分でも足場設置不要	外壁側からの補強の場合、2階部分ならば足場が必要となる
居ながらの補強が可能か	施工規模にもよるが、基本的に床はそのままの状態で行うことができるので、居ながら(家具も若干の移動で)の補強が可能	外壁側からの施工ならば、居ながらの補強可能。ただし、屋内側からの施工の場合、床を撤去するため、規模によっては居ながらの補強は難しいこともある(家具は別室または屋外に移動必要)
工期・コスト	床・天井の撤去が不要なため、低コスト・工期短縮が可能。またクロスや張替えなどのリフォーム時に行えば、より効率的に工事が可能	
補強効果(壁基準耐力)	例.[1]MDF大壁 T 8.8kN/m	構造用合板直張り : 5.2kN/m 筋かい木材45×90 : 6.4kN/m(金物有りのたすき掛け)

5. 耐震診断と補強設計の概要

1) 耐震診断

(一財)日本建築防災協会「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の「一般診断法」または「精密診断法1(保有耐力診断法)」により、耐震診断を行う。

2) 補強設計

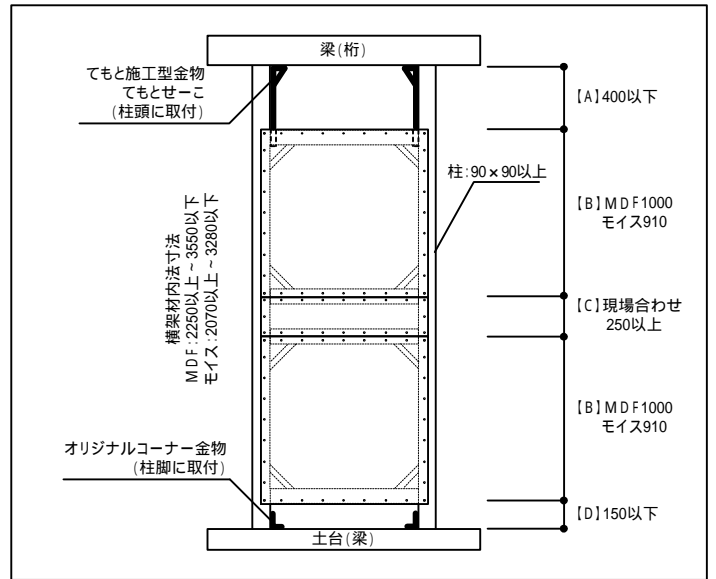
耐震診断において評点が1.0未満の場合は、補強後の耐震診断を上記の「一般診断法」または「精密診断法1」により行い、補強により評点が1.0以上になることを確認する。またその際、施工部位の既存状況(大壁、真壁、後施工柱など)に合わせた施工仕様を選択し、かつ対象建物の形状等を勘案の上、最適な補強設計を行う。また、対象建物の現状を十分に把握した上で、腐朽や蟻害箇所は適切な方法で補修又は交換することを前提とする。

補強設計は、3.技術の実施者 1)設計者の項に掲げる者が行う。

6. 施工方法の概要

1) 柱頭に「てもと施工型金物」を使用する各施工仕様の施工概要図

- ・ 図中【A】は梁下から400mm以下
- ・ 図中【B】はMDFかべつよしは1,000mm、モイスかべつよしは910mm
- ・ 図中【C】は現場あわせで250mm以上
- ・ 図中【D】は土台・梁天端から150mm以下
- ・ 面材ビス:かべつよし(MDF)はKK50、モイスかべつよしはL28を使用する
ビスピッチは@125mmを基本とし、【6】のMDF真壁添え柱Wのみ@250mmビスのボードからの縁短距離は20mm
- ・ 金物は柱頭にてもと施工型金物、柱脚にはオリジナルコーナー金物を設置する
後施工柱の柱頭にてもと施工型金物、柱脚へはリブコーナーを設置する

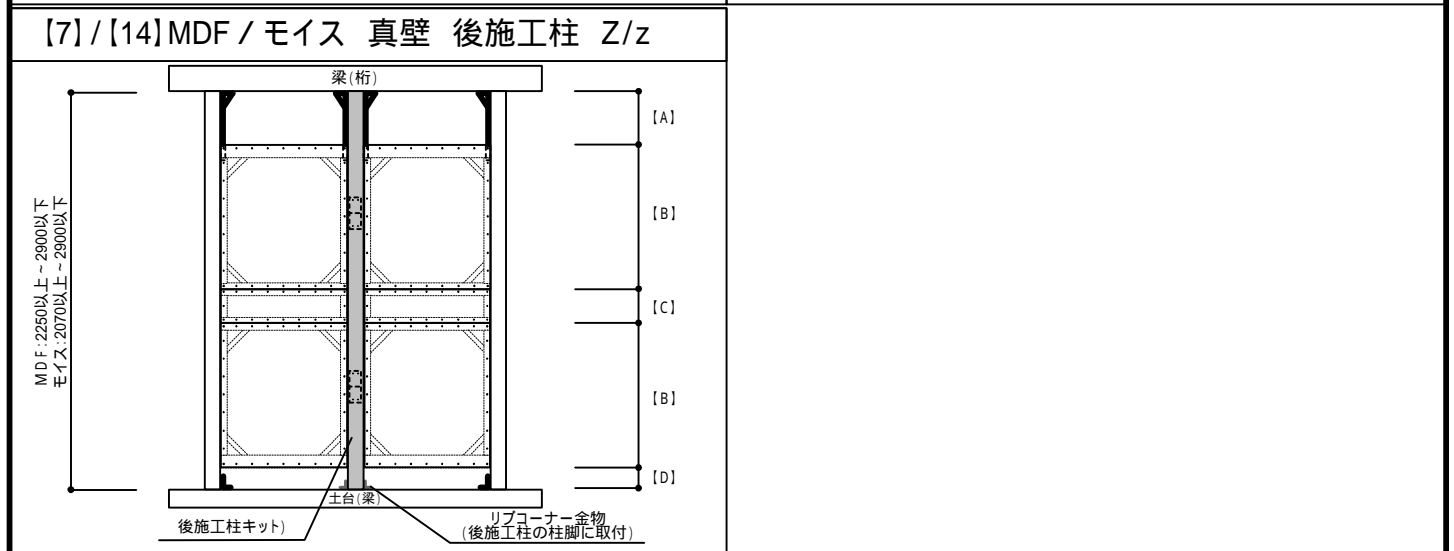
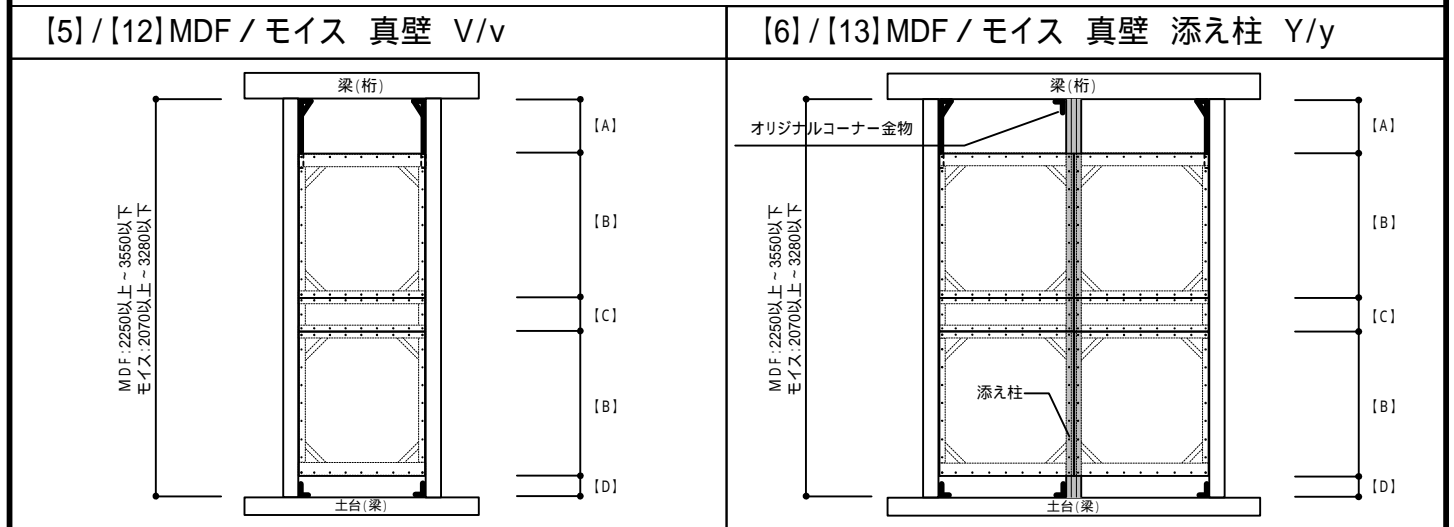


施工仕様別の納まり図を以下に記載する。

施工仕様		【1】/【8】を基準とした際の仕様比較	
面材(MDF) / モイス	大壁用	[1] / [8] 大壁 T/t	
		[2] / [9] 大壁 入隅 U/u	入隅柱には受材(縦棧)を取付ける
		[3] / [10] 大壁 添え柱 W/w	柱と他方は既存の間柱に添え柱をし、断面寸法は90×90以上とする
		[4] / [11] 大壁 後施工柱 X/x	柱と他方は後施工柱90×90を設置する

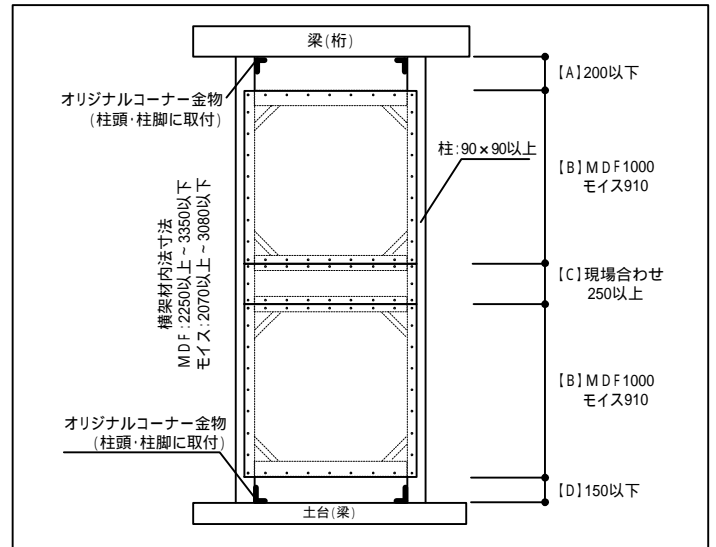
<p>【1】/【8】MDF / モイス 大壁 T/t</p>	<p>【2】/【9】MDF / モイス 大壁 入隅 U/u</p>
<p>【3】/【10】MDF / モイス 大壁 添え柱 W/w</p>	<p>【4】/【11】MDF / モイス 大壁 後施工柱 X/x</p>

施工仕様		[5] / [12] を基準とした際の仕様比較	
面材はMDF / モイス	真壁	[5] / [12] 真壁 V/v	
		[6] / [13] 真壁 添え柱 Y/y	柱と他方は既存の間柱に添え柱をし、断面寸法は90×45以上とする
		[7] / [14] 真壁 後施工柱 Z/z	柱と他方は後施工柱90×90を設置する



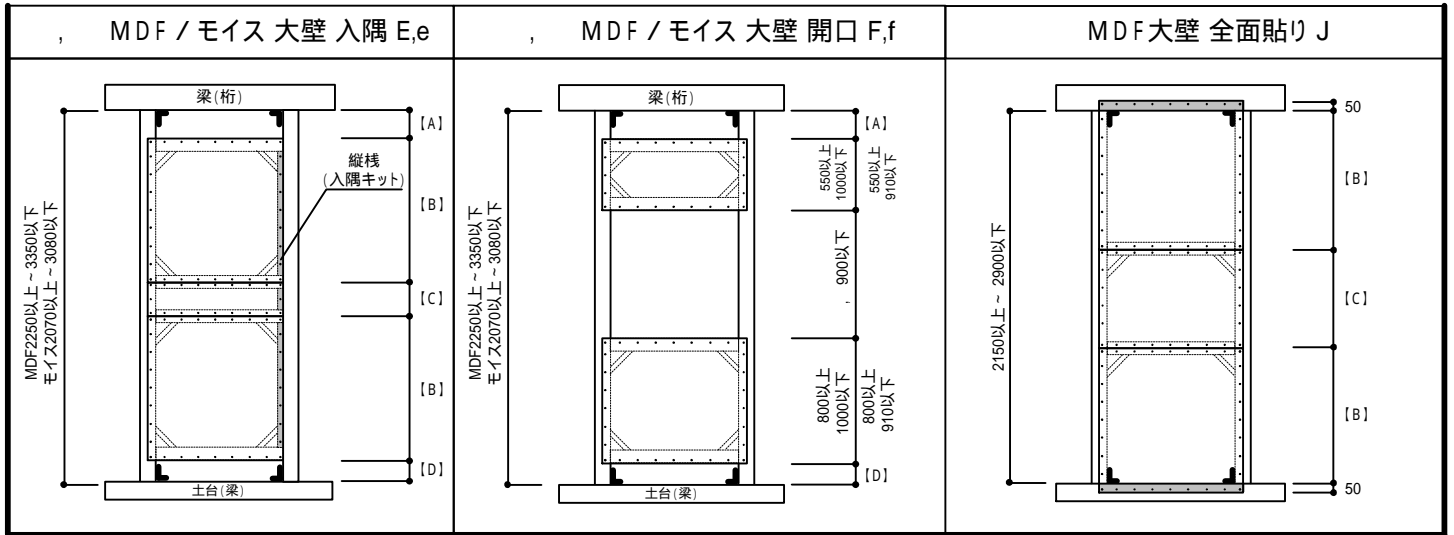
2) 柱頭に「オリジナルコーナー金物」を使用する各施工仕様の施工概要図

- ・ 図中[A]は梁下から200mm以下
モイス大壁 / 真壁のみ400mm以下対応の仕様あり
- ・ 図中[B]はMDFかべつよしは1,000mm、
モイスかべつよしは910mm
- ・ 図中[C]は現場あわせで250mm以上
- ・ 図中[D]は土台・梁天端から150mm以下
- ・ 面材ビス: かべつよし(MDF)はKK50、
モイスかべつよしはL28を使用する
ビスピッチは@125mmを基本とし、
[5~7]のMDF真壁のみ@250mm
ビスのボードからの縁短距離は20mm
- ・ 柱頭及び柱脚にオリジナルコーナー金物を設置
後施工柱の柱頭・柱脚へリブコーナーを設置

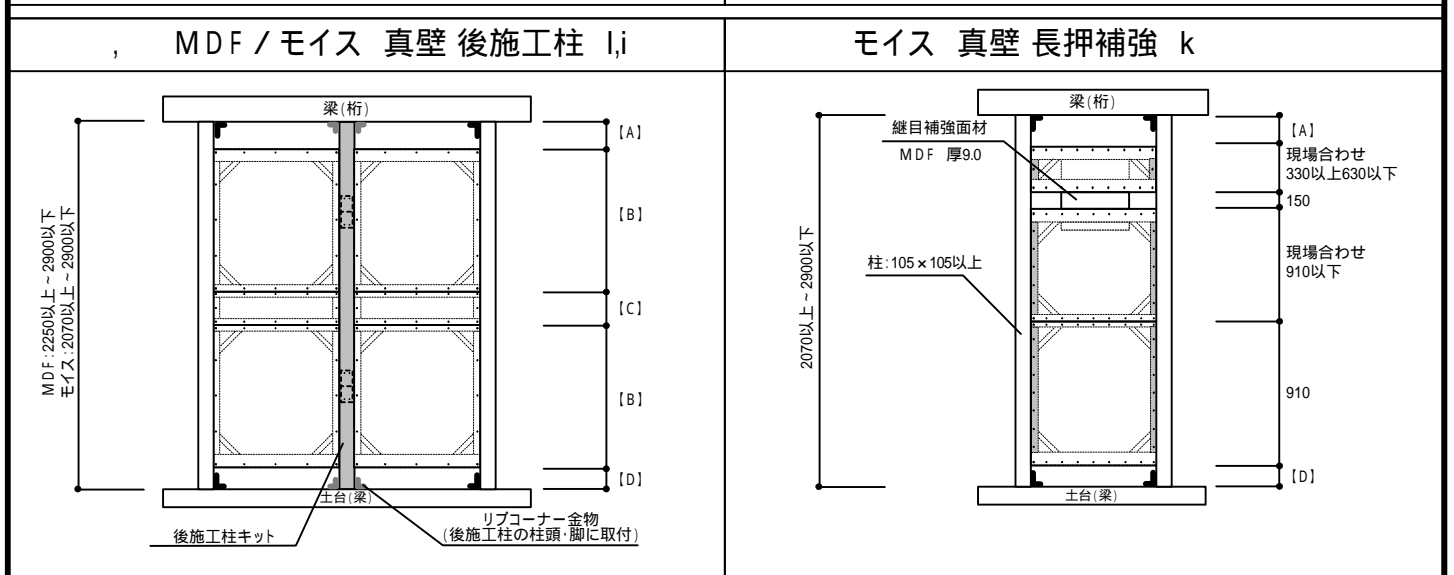
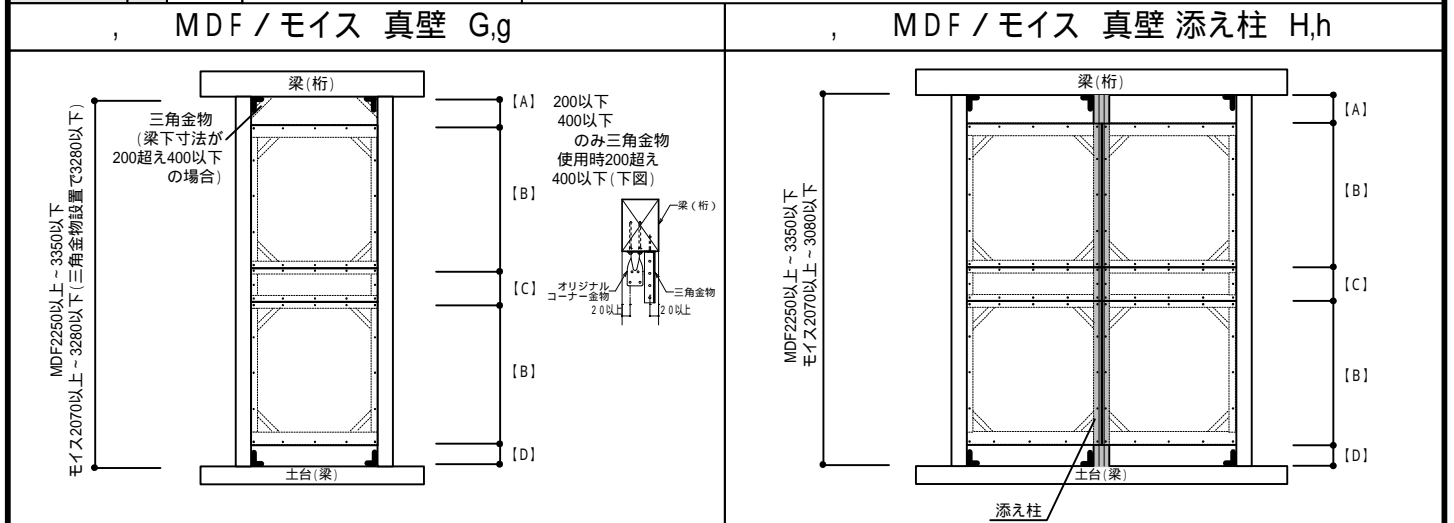


施工仕様別の納まり図を以下に記載する。

施工仕様		を基準とした際の仕様比較	
カベツヨシ モイスかべつよし	大壁用	大壁 A, a	
		大壁 B, b	左右柱90角 ~ 105角未満
		大壁 添え柱 C, c	柱と他方は既存の間柱に添え柱をし、断面寸法は90×90以上とする
		大壁 後施工柱 D, d	柱と他方は後施工柱90×90を設置する
		大壁 入隅 E, e	入隅柱には受材(縦棧)を取付ける
		大壁 開口 F, f	腰壁、垂壁のみとし900以下の開口を設ける
		大壁 全面貼り J	上下の横架材まで面材を張り上げる仕様
MDF / モイス 大壁 A, a		MDF / モイス 大壁 B, b	
MDF / モイス 大壁 添え柱 C, c		MDF / モイス 大壁 後施工柱 D, d	



施工仕様		を基準とした際の仕様比較
真壁用	真壁 G, g	
	真壁 添え柱 H, h	柱と他方は既存の間柱に添え柱をし、断面寸法は90×45以上とする
	真壁 後施工柱 I, i	柱と他方は後施工柱90×90を設置する
	真壁 長押補強 k	長押部で面材を分割するため、裏面にて継目補強面材を設置する



7. 調査・検査、維持管理の概要

当技術は、一般的な合板、筋かい等の補強方法に類するものであり、特別な維持管理は必要ない。

8. 部品、部材の製造・品質管理と流通体制

1) 製造体制

各部材の製造は、エイム株式会社が定める製品規格に基づいた製造・品質管理を行えると認定した会社(工場)にて行う。梱包は、エイム株式会社がチェックシートに従い行う。

2) 品質管理体制

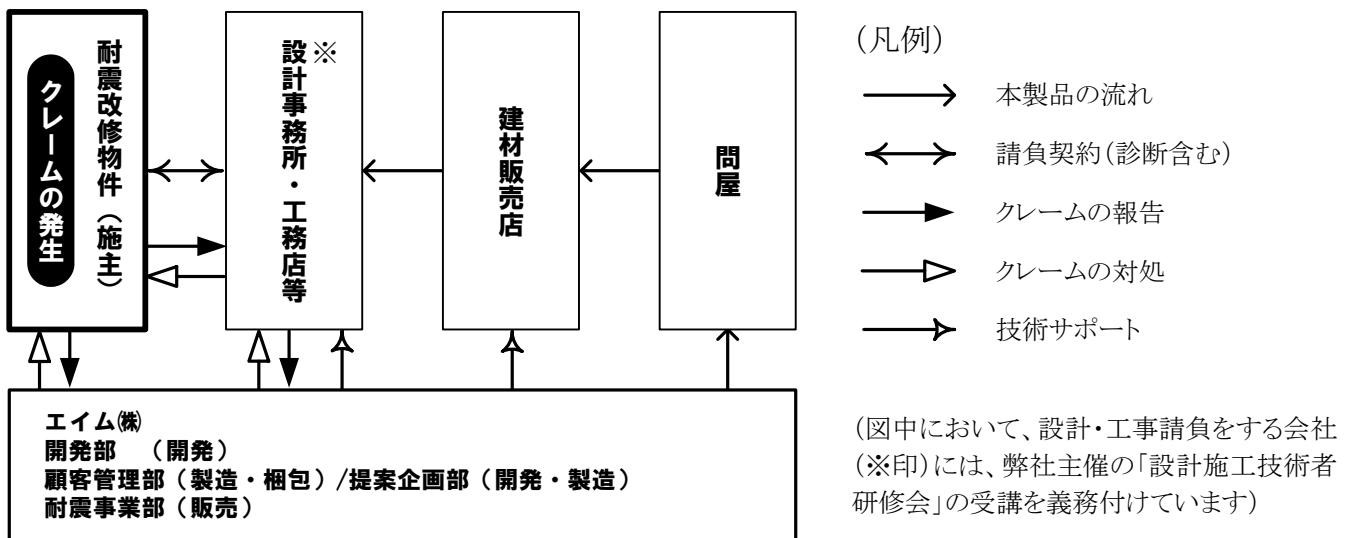
各部材の製造上の品質管理は、上記の製品規格に基づき行う。

3) 流通体制

製品の流通は、下記の「製品の流れと施工体制、クレーム処理体制」を参照。

9. 契約の方法・内容とクレーム処理体制

エイム株式会社が開催する設計施工技術者研修会もしくは弊社の施工指導を受けた会社が、住宅所有者と契約を結ぶ。クレーム処理体制は、下図に示すとおりである。製品(部材)に起因する不具合については、エイム株式会社が対応するが、施工不良や、エイム株式会社が定める施工方法によらない施工・取扱いによる瑕疵・クレームが発生した場合は、工事請負会社がこれに対応する。



10. その他の事項

- 施工管理は、エイム株式会社が開催する設計施工技術研修会、もしくはエイム株式会社が行う施工指導を受けた者が責任を持って行う。(9.契約の方法・内容とクレーム処理体制を参照)
- 施工にあたった業者(工務店ほか)は、施工チェックシートに従い、施工時の検査を行う。
- 施工のチェックにより、施工間違いや適用範囲外であることが判明した場合、その施工部分は、再施工とする。再施工が行えない場合は、所定の性能を有するとは見なさないものとする。
- 補助金対象工事については、担当行政庁の指示に従って申請図書を作成し、提出する。



建防災発 17142 号
平成 30 年 2 月 7 日

技 術 評 価 書

エイム株式会社 殿

平成 29 年 5 月 17 日付けで貴殿より依頼のあった下記について、当協会に組織した住宅等防災技術評価委員会（委員長：大橋好光 東京都市大学工学部教授）において検討した結果、別紙技術評価報告書のとおり、耐震性を向上できる補強方法であると評価します。

一般財団法人日本建築防災協会
理事長 坂本 功



1. 評価番号

DPA-住技-13-2（変更・追加・更新）

2. 件名

「かべつよし」「モイスかべつよし」

3. 技術評価事項

「かべつよし」「モイスかべつよし」の技術資料に示される、適用範囲、性能、設計方法、施工方法及び品質管理方法の妥当性

4. 評価書の有効期間

平成 34 年 5 月 13 日まで（平成 30 年 2 月 7 日から）

なお、平成 29 年 5 月 14 日から平成 30 年 2 月 6 日までの期間については、変更・追加及び更新の審査中であったため、旧評価書を有効として扱った。

5. その他

平成 25 年 8 月 26 日付け技術評価（建防災発第 13056 号）DPA-住技-13-1（変更・追加・更新）は、無効とする。